

南京航空航天大学

二〇〇八年硕士研究生入学考试试题

考试科目: 基础日语

说明: 所有试题答案必须写在答题纸上, 答案写在试卷上无效

一 語彙

1 次の語句の漢字に振り仮名をつけなさい。(0.5×20=10点)

- | | |
|-----------|------------|
| ①紅 () | ②鯨 () |
| ③前胸 () | ④風情 () |
| ⑤平凡 () | ⑥脱出 () |
| ⑦粉雪 () | ⑧氷屋 () |
| ⑪幾重 () | ⑫探偵 () |
| ⑬春雨 () | ⑭根性 () |
| ⑮東西 () | ⑯一人前 () |
| ⑰誇大妄想 () | ⑱腹部切開 () |
| ⑲高橋和巳 () | ⑳光合成作用 () |

2 次の語句の片仮名の部分を漢字になおしなさい。(0.5×20=10点)

- ①列車の衝突事件がおきたが、さいわいに乗客にケガ () はなかった。
- ②警察の方がカクショウ () を入手したので、犯人をすぐ逮捕した。
- ③足が不自由だからと言って、レットウカン () を抱くこともないだろう。
- ④理性がハタラ () いて、けんかをやめた。
- ⑤財政、金融の引き締めで、一部の商社がトウサン () した。
- ⑥コウキン () にかられてちょっと横目で見た。
- ⑦日本語から来た「手続き」という言葉は、もう中国語にテイチャク () している。
- ⑧謙遜はビトク () である。
- ⑨彼はなかなかのビショクカ () で、食物にすごくこっている。
- ⑩湖や海が陸地にはいりこんだ所をイリエ () という。
- ⑪真夏なのに森の中はベッテンチ () のように涼しかった。
- ⑫あの詩は、彼の当時のシンキョウ () を歌ったものである。
- ⑬もしも百年がこのイッシュン () の間にたったとしてもなんの不思議もないだろう。
- ⑭指名テハイ () 中の犯人をつかまえた。
- ⑮上海には三日間タイザイ () した。

- ⑯ こういう専門的な知識はシロウト（ ）にはわからないだろう。
- ⑰ あのアメリカ人は、ミブ（ ）り手振りをまじえながら未熟な中国語で何か言っている。
- ⑱ 犯罪のドウキ（ ）はいまだにわからない。
- ⑲ 酒の飲めない僕も酒をシ（ ）いられた。
- ⑳ 日本の自動車が大量に西欧諸国にシンシュツ（ ）している。

二 文法

1 次の文の（ ）には、どんな言葉を入れたらよいか。よく考えて最も適当なものを一つ書き込みなさい。(1×10=10 点)

- 1) 国はその大小を（ ）、一律に平等でなければならぬとわれわれは主張しているのである。
- 2) 長女はおふくろに抱かれて育ったので、おふくろの田舎言葉はたいていわかるが、（ ）時折、わからない言葉が出てきてめんくらう。
- 3) 遠慮をしないで、言いかけたことは終わり（ ）言いなさい。
- 4) こういう日和が連続して、冬がなくなったら、この世は天国である（ ）、あるべからざることを空想したが、私にも人並みの空想癖があるので、空想しだすと、際限がないのである。
- 5) 普通なら新米がうまい（ ）なのに、多雨の去年は新米より古米の方が甘味が豊かだったという。
- 6) 富士山のでっぺんで一冬こす（ ）、死にに行くようなものだ。
- 7) 東京の夏を知っている者（ ）、暑いことは暑くても、東京ほどの猛暑とは感じられなかったのです。
- 8) サッカーは今までは男性（ ）のスポーツとされてきたが、近頃は女子サッカーもぼつぼつ見られるようになった。
- 9) 毎日インスタントラーメン（ ）では、栄養失調になる。
- 10) 母の死という悲しい知らせ（ ）、彼女はすっかり気を落としてしまい、いつもの明るい顔を見せなくなった。

2 次の言葉を使って、完全な文を作りなさい。(3×10=30 点)

- 1) …すれすれ
-

- 2) …別として
-

- 3) …そこなう
-

- 4) …せいか、…
-

5) …う（よう）と、…う（よう）と、…

6) うわの空

7) …へ もってきて、…

8) … とともに …

9) … 見るからに

10) … や否や …

三 読解

1 次の文章を読んでその後の質問に答えなさい。

北海道の秋

確かに北海道には実りの秋という感じがある。それは、北海道住まいがだんだん長くなるにつれて、はっきり感じるようになってきて、今ではそれ以外に秋というものの感じがあることが変なくらいになってきた。北海道の秋は生産的で充実していて忙しくて、(A) ぴちぴちしていて健康的で若々しくて、何か新鮮である。

しかし、われわれがそこから抜け出してきた古い日本の秋というものは、およそそれとは別な色合いを持ったものであった。紅葉の散り頻る上に暗い雲のかかった、ともすれば、秋雨のじめじめと降り注ぐ、侘しげな秋、言ってみればそれは凋落の秋であった。しかし中年になってそこから抜け出してきた。

われわれ移住者の (B) 端くれ にとっては、老年敗残の琴線に触れて、雨蕭蕭たる落葉の季節はその静かさの点で懐かしく、気味深い点で故郷の秋という感にたえないものであって、1) それは千年来の古典文学の表現に支えられ、その情調によって日本人の心に調和する和音を奏でているのであった。それからすれば、北海道の秋は、まるで別様の秋である。実りの秋であるから生産と活動と生命と若さと建設とに結ばれる。それは明朗で澆刺として、収穫と狩猟との秋である。感じが新しい。これも、また、日本の秋なのだと思い返してみると、今更のような驚きさえ感じさせられる。

これは、移住者にとっては問題である。道産子が北海道人口の主成分になってきている現在では、そんなことは問題ではなくなっているわけだろうけれども、北海道の意識が日本のものとしてはっきり捉えられるようになれば、それは2) 古い日本のそれと比べて、あまりにもはっきりした相違を持っていることが、新しい問題になってこざるを得ないだろう。日本人の従来の美意識では (C) 割りきれない北海道の自然の表情、そうした自然の中に住民と自然との社会的な心理的な相互の関係と言うことを考えていくと、いろいろ本州とは違ったものが当然に生まれてきていることに気づくだろう。畑の畝の立て方から、種の下ろし方、苗の育て方に始まって農業の技術も本州とは著しく違っている。北緯四十度の圏内にあるところから植物・動物の分布も本州とは著しく違うから、そこで栽培される野菜の類にしても本州のものは多くは育たない。本州のものすべて三十度圏内で育ってきた植物だからである。

だから、米のように本来育たなかったものを、主食であると言う意味からそれを強いて多量に生産しようとするためには、農業試験場などの尽くした努力は、何十年にわたっておそるべきものがあったであろう。其の品種改良と耕作法の改良とによって、今では、美深のあたりまで水田が開墾され、日本酒が作られ、道人口一人 (D) 一石当りに近い収量を上げるようになってきたことだけでも驚くべき結果であって、日本人の自然にいどむ熱心さは尊ぶべきものではあるが、その先にまだ米とたくあんのみそしるだけでは対抗できない自然力があって、冷酷に人体をむしばもうとしていることも忘れることはできないであろう。そうしたことを考えながら眺めると、北海道の水田は、まだそこだけが北海道の自然になじまない景観を呈していると言う不思議な不自然さを感じさせないであろうか。

私が北海道に居ついた夏、何よりも先に感じたことは、北海道の風景としての水田の不自然さであった。もちろんそれは先人の努力を無視しようとするものでもなんでもない。ただ、移住者の一番先に (E) 先覚した日本の包蔵する問題であったにほかならない。それはまことに自然であるように受け取ることができた。家屋は、寒地向きのものが近頃はだんだん建てられているが、長い間旧日本の建築法がそのまま受け継がれて、金のある人は豪奢に作ってそれで寒さもしのげたらうが、庶民はひどく貧寒な設備の元で、ただただ薪か石炭を燃やして、最も非科学的に熱を放散してしまうほかない数十年を送ってきたわけである。そこで、食住とも、この四十度圏の寒地的自然に対するには、あまりに不用意にしか見えない方法で生きるほかなかった。というのは、ほかならぬ新しい方法を採用して、3) それになれ切るには、四十度圏の生活文化が成立し、4) それに君臨する文化主体が成熟するには、ただ時間だけでなくもっと別の資本を掛けることが必要であったのだという。いとも簡単な真理に支配されたにすぎなかったことである。しかしその点で不如意だった開拓の歴史の八十年は北海道の社会をあまりにも旧日本に引きとどめ、そして旧日本の主食に引きとどめる方に努力を傾け尽く

した結果になった。そしてその全力の結果は、この北緯四十度圏の景観を三十度圏、二十度圏の景観に改造するための水田耕作という一点にその姿を現してきている。それにしても、このかなり無理な努力は今や成功し、実りの秋は豊かになった。しかし、秋の情調だけは本州のものは伝わってこなかったし、5) それを歌い上げた文学もまた北海道人の心の基調にはほど遠いものとなっている。6) それは何から来たものであったろう。

(……)

そこには長い冬に対する万全の準備を終わったといった人間の感情が支配する。そうして生活感情の曲線は都会の生活にだってある。秋は町の人にとっても、準備のときであり、緊張と多忙との時である。愁嘆などにふけている緩んだ空気はない。十一月に移るころの大根の買い込み、そして石炭や薪やの買い込みの遅れた時の不安に満ちた忙しさ。北海道の秋は生産の収納と冬の準備とに緊張した。一年中でももっとも豊富な人生を生きている季節といえよう。

7) それは自然のある限り、北緯四十度圏の宿命である。そしてヨーロッパの生活もまた同じ自然の支配のもとに、その生活暦を規定してきた。西洋文学の郷土は北海道と同じだと言ってよいであろう。そこでも秋は庶民にとって豊富で充実して若く楽しく美しく明るい生きがいのある季節である。そこで悲傷の孤独に秋雨の煙るのを眺めている人は、庶民の (F) 埒外に出た個人である。そういえば、日本の秋が悲しく寂しかったのは、日本古典の美の伝統が貴族のものであったからであろう。

1 A、B、C、D、E、F のついた単語の意味を日本語で説明しなさい。(12 点)

(A) ぴちぴちする

(B) 端くれ

(C) 割りきれない

(D) 一石

(E) 先覚する

(F) 埒外

2 次の 1) 2) 3) 4) 5) 6) 文の「 」にある「それ」が指す内容をそれぞれ日本語で説明しなさい。(14 点)

1) 「それ」は千年来の古典文学の表現に支えられ、

2) 古い日本の「それ」と比べて、

3) 「それ」になれ切る

4) 「それ」に君臨する文化主体

5) それを歌い上げた文学

6) 「それ」は何から来たもの

7) 「それ」は自然のある限り、北緯四十度圏の宿命

3 次の下線の引いた言葉はこの文章の中で具体的な意味はなんですか。日本語で説明しなさい。(12点)

1) 北海道の意識が日本のものとしてはっきり捉えられるようになれば、それは古い日本のそれと比べて、あまりにもはっきりした相違を持っている

2) 日本人の自然にいどむ熱心さは尊ぶべきものではあるが、その先にまだ米とたくあんのみそしるだけでは対抗できない自然力があって、冷酷に人体をむしばもうとしている

3) 開拓の歴史の八十年は北海道の社会をあまりにも旧日本に引きとどめ、そして旧日本の主食に引きとどめる方に努力を傾け尽くした結果になった。

四 翻訳:

次の俳句と散文を中国語に訳しなさい。

1) 山吹を踏んで、驚く雀かな (2点)

2) 桐一葉日当たりながら落ちりけり (2点)

3) 花もやうやうけしきだつほどこそあれ、をりしも雨風うちつづきて、心あわただしくちりすぎぬ。青葉になりゆくまで、万にただ心をのみぞなやます。(4点)

4) 次の文章を中国語に訳しなさい。(14 点)

十月は秋の労働の頂点である。大人も若者も子供も忙しい。人生悲傷の愁嘆を噛み締めて夜の長きをかこつような暇はない。それに明るい空、光の雲、そして、すべてが終わる中で、わたり鳥の猟が始まっている。雪来る前の牧場の冬ごしらえの忙しさと緊張。これもまた別の秋である。

そこには長い冬に対する万全の準備が終わったといった人間の感情が支配する。そうして生活感情の曲線は都会の生活にだってある。秋は町の人にとっても、準備のときであり、緊張と多忙との時である。愁嘆などにふけている緩んだ空気はない。十一月に移るころの大根の買い込み、そして石炭や薪やの買い込みの遅れた時の不安に満ちた忙しさ。北海道の秋は生産の収納と冬の準備とに緊張した。一年中でももっとも豊富な人生を生きている季節といえよう。

五 作文 (300 字ほど) (30 点)

グローバル化と私

南京航空航天大学

二〇〇八年硕士研究生入学考试试题参考答案

考试科目: 基础日语

一 語彙

1 次の語句の漢字に振り仮名をつけなさい。(0.5×20=10 点)

- ①くれない ②くじら ③まえむね ④ふぜい ⑤へいぼん
 ⑥だっしゅつ ⑦こなゆき ⑧こおりや ⑨ずいこう ⑩すいとう
 ⑪いくえ ⑫たんてい ⑬はるさめ ⑭こんじょう ⑮とうざい ⑯いちにん
 まえ ⑰こだいもうそう ⑱ふくぶせっかい
 ⑲たかはしかずみ ⑳こうごうせいさよう

2 次の語句の片仮名の部分を漢字になおしなさい。(0.5×20=10 点)

- ①怪我 ②確証警 ③劣等感 ④働 ⑤倒産 ⑥好奇心
 ⑦定着 ⑧美德 ⑨美食家 ⑩入江 ⑪別天地 ⑫心境
 ⑬一瞬 ⑭手配 ⑮滞在 ⑯素人 ⑰身振 ⑱動機
 ⑲強 ⑳進出

二 文法

1 次の文の()には、どんな言葉を入れたらよいか。よく考えて最も適当なものを一つ書き込みなさい。(1×10=10 点)

- 1 問わず 2 それでも 3 まで 4 と 5 はず
 6 なんて 7 には 8 向き 9 ばかり 10 で

2 次の言葉を使って、完全な文を作りなさい。(3×10=30 点) (略) 三 読解

1 A、B、C、D、E、F のついた単語の意味を日本語で説明しなさい。(12 点)

- (A) ぴちぴちする 若々しく活気に満ちているさま。
 (B) 端くれ 取るに足りない存在だが一応その部類に属する者。
 (C) 割りきれない 了解・納得できなく、すっかりしないこと。
 (D) 一石 体積の単位、役 180 リットル。
 (E) 先覚する 世人より先に道理を覚え、世を導くこと。
 (F) 埒外 物事の一定の範囲外。

2 次の 1) 2) 3) 4) 5) 6) 文の「 」にある「それ」が指す内容をそれぞれ日本語で説明しなさい。(14 点)

- 1) 日本伝統の雨蕭蕭たる落葉の秋

- 2) 秋について伝統的な考え方
- 3) 四十度圏の生活や自然
- 4) 四十度圏の生活文化
- 5) 北海道の秋
- 6) 北海道の秋を歌い上げた文学
- 7) 一年中でももっとも豊富な人生を生活している季節

3 次の下線の引いた言葉はこの文章の中で具体的な意味はなんですか。日本語で説明しなさい。(12点)

- 1) 北海道人の考え方
- 2) 本州日本人の生活習慣
- 3) 伝統的な日本

四 翻訳:

1 次の俳句と文章を中国語に訳しなさい。

- 1) 山吹を踏んで、驚く雀かな (2点)

不慎踏榛棠，惊飞山中雀。

- 2) 桐一葉日当たりながら落ちりけり (2点)

孤桐一片映日辉，悠然飘落去，

3) 花もやうやうけしきだつほどこそあれ、をりしも雨風うちつづきて、心あわただしくちりすぎぬ。青葉になりゆくまで、万にただ心をのみぞなやます。(4点)

樱花将开时，不巧又遇连日风雨，花儿无奈急急落下。只盼着梢头现绿叶，让我等得心焦。

4) 十月是秋季劳作的高峰，成人，小伙子，儿童全忙活起来了。没有闲情触景生情哀叹人生的悲哀，没有功夫埋怨难熬的漫漫长夜。有的是明朗的蓝天，耀眼的白云。当庄稼活全忙完后，接踵而来的是猎取候鸟；雪季来临前地牧场准备，这一切都异常繁忙和紧张。这又是北海道秋天的别样风景。

在北海道，完全做好越冬准备这种心情控制着人们。这种对生活的情感同样也紧扣着城镇人的心弦。对于城镇居民来说，秋天也是准备越冬的季节，同样繁忙和紧张。完全感觉不到沉溺于哀叹秋季凄凉的气氛。十月将至，人们忙忙碌碌地储存萝卜、买好煤炭和柴禾，满脑子担心耽误时机。北海道时秋天是收获和越冬准备的繁忙。可以说，这是一年中人生最充实的季节。(14点)

五 作文 グローバル化と私

採点基準 1) 内容 (10点) 言葉遣い (10点) 文法 (10点)